

平成 28 年度（2016 年度）しおあなの森保育園事業報告

民営化から 5 年が経過し、保護者に約束していた第三者評価を受審した。大阪府の担当職員からは、『a ということは最高の保育をしているということですよ！』と言われ、調査機関の調査員は『はい、そうです。』と返事したとのこと。保護者のアンケートの回収率は 94%（対象世帯 123 世帯中 116 世帯）で多くの項目で園の保育内容に支持を得、全体として高い評価だった。

1.保育について

全体としては感染症の大流行もなく、元気に登園した。次亜塩素酸水の導入など日常的な清潔や衛生面での対応が功を奏したのかもしれない。菜園活動で里芋を育て、葉っぱに水玉を乗せて転がして遊んだり、綿の栽培で糸繰木を使用するなど新たな経験や発見があった。『明日に期待を持つ保育』を 27 年度末に保育士で再確認し、職員とともに遊び楽しむ保育を心掛けてきた。土曜日も日曜日も『保育園に行きたい』と言って親を困らせるなど、子どもたちは日々楽しんで生活していた。

年間の延保育児童数は、1,892 人で月平均 157.7 人（定員 160 人）だった。緊急一時保育の 0 歳児は 2 名あり 3 ヶ月間保育した。

苦情件数は 4 件で保育士の対応が 2 件（散歩中、保育士が子どもの手をつないだ時、強く握りしめたため痛いと言って泣いた）（熱があるのに気づかず降園させた）、園の対応が 1 件（ケガした子をすぐに医者連れて行かなかった）その他（職員の電話対応が暗い）の 1 件だった全て話し合いで解決した。

3 月 31 日、卒園児の保護者が、「ここに保育園があったから私は働き続けることができました」と涙ながらに話されたことは職員にとっても嬉しいことで、保育園存在の意味合いを痛感した。

2.延長保育の利用について

年間で延べ 714 人の利用があった。

3.一時預かり

利用件数は 114 件で、昨年度より減った。乳児が殆んどであった。幼児では、食事やおやつを全く食べない子の保育が時々入った。慣れていても、幼児であっても一時預かりは人員配置が大変であった。

4.子育て支援

園庭開放の参加者は 656 人で昨年と大きな変化はない。保護者同士仲良くなり、11 時半の終了から 1 時間以上、子どもを園庭で遊ばせながらおしゃべりに興じる姿も見られた。親にはこんな時間が必要なのだと改めて思う。おやつの調理実習は参加者が多かった。子育て相談は 170 件。食事の相談が多い。

5.交流保育について

今年の特徴は、放課後や長期休み中、小学生の訪問が増えたことだった。記録を開始した冬休み以降で 186 人。ルールとして・園の子どもたちが園庭に出ている時間帯・小さい子には優しく遊んであげる・お茶以外の飲食禁止・自分で約束した時間には帰ること・名前を書くことなどを決めた。小学生は人の役に立つことを経験し、ボール遊びを教えたり、小さい子相手の時は我慢する経験などもしている。

共愛保育所とは、菜園活動や 5 歳児の交流、園庭に遊びに来たり、遠足の行き先にお互いがするなどよく交流している。小学校とは大仙西だけでなく、新湊小学校ともよく交流するようになった。

6.研修について

共愛と毎年合同で実施している人権研修では「子どもの貧困について」を徳丸さんを講師に実施した。子ども 6 人につき 1 人という数字は分かっているが、うちで言えば約 26 名がその対象だなどという捉え方はしていなかった。あらためて子どもの生活背景をしっかりとらえ、子どもたちの食生活や保護者の子どもへの対応などについてもじっくり見ていく必要性を再認識させられた研修だった。